

『賢愚経』 「出家功德尸利苾提品」と 『出家功德経』

三 宅 徹 誠

はじめに

『賢愚経』は、五世紀前半に成立した本生譚などを収録する経典である。『賢愚経』「出家功德尸利苾提品」(以下「出家品」と略す)では、前半に出家の功德が最勝であることが述べられ、後半に出家の功德に関する因縁譚が説かれる。前半部分を抄出し一本の経典としたのが『出家功德経』である。本稿では、『賢愚経』と、その抄出経とを比較することで、抄出経の成立などについて考察する。

一 概要

(一) 『賢愚経』 「出家功德尸利苾提品」

① 諸本

「出家品」を含む巻を残す諸本を略称と共に以下に挙げる。
写本・大聖武【聖】…白鶴美術館所蔵。伝聖武天皇宸筆。
七寺本【七】…十二世紀後半書写。

興聖寺本【興】…十二世紀後半書写。

敦煌本S. 三六九三【敦S】…五〇〇年前後書写⁽¹⁾

敦煌研究院本〇五七番【敦研】…書写年代不詳

刊本…金藏広勝寺本【金】、高麗藏再雕本【麗】、磧砂版【磧】

大正蔵本の校注によって宋元明版の本文も概ね知ることができる。「出家品」は日本現存古写経と【磧】宋元明版では卷四第十八話、【金】【麗】では卷四第二十二話である。

② 経の冒頭

写本…出家因縁其福甚多。

蔵訳：gang zhig rab tu byung na de bsod nams ni rab tu mang ste /⁽²⁾

刊本…如是我聞一時佛在摩伽陀國王舍城迦蘭陀竹園中。爾

時世尊。讚歎出家功德因縁其福甚多。⁽³⁾

妻木直良氏が、『賢愚経』の敦煌本と宋元明版を比較して、「如是我聞」などを付加していない敦煌本が古態を留めていると既に指摘している。⁽⁴⁾ 写本・蔵訳は、「如是我聞」などの文を持たないので、古態を保持していると言える。

『賢愚経』「出家功德尸利苾提品」と『出家功德経』（三宅）

三八

(二) 『出家功德経』

① 諸本

『出家功德経』という名の経は二種ある。

A. 『賢愚経』「出家品」抄出の『出家功德経』。(『大正蔵』に無し)

B. 鞞羅羨那の出家の話を述べた『出家功德経』。『開元釈教録』以前は支謙訳とされた⁽⁵⁾(『大正蔵』七〇七番)。

「出家品」の抄出経である『出家功德経』は、『開元釈教録』や『貞元新定釈教目録』で入蔵録に記載されなかった⁽⁶⁾。そのため、その後の一切経には概ね入蔵されなかったが、七寺などでは不入蔵となった経典も書写したため、七寺一切経・石山寺一切経といった日本に現存する一切経中で、目録上ではあるが確認できる。更に、房山石経本二種・敦煌写本・高麗蔵本が現存している⁽⁷⁾。筆者が本文を確認できたのは敦煌・房山二種・高麗の四本である。以下に略称とともに挙げる。

写本・敦煌本BD〇一〇三四(北八七一六V)【敦】⁽⁸⁾：九

十世紀書写⁽⁹⁾

七寺本⁽¹⁰⁾：十二世紀後半書写

石山寺本⁽¹¹⁾

刊本・房山二六番(七洞〇〇七四)【房A】⁽¹²⁾：貞観五年(六三一)

房山五二番(八洞一三六)【房B】⁽¹³⁾：長寿三年(六九四)

高麗蔵再雕本【麗】：十三世紀成立

本文によつて、【房A】【房B】【敦】と【麗】とに分けられる。【麗】が「出家品」の本文に最も近い。【房A】【房B】【敦】には、付加や改変が見られる。第二章で詳述する。

② 抄出時期

経録では、『大周刊定衆経目録』(六九五年成立)が初出である。次のようにある。

出家功德経一卷(六紙) 右呉時支謙譯。出長房録。

出家功德経一卷(二紙)⁽¹⁴⁾

前者の「六紙」が『大正蔵』七〇七番の『出家功德経』で、後者の「二紙」が『賢愚経』抄出の『出家功德経』である。

法琳(五七二〜六四〇)『破邪論』、道宣(五九六〜六六七)撰

『四分律刪繁補闕行事鈔』、道世撰『諸経要集』、同撰『法苑

珠林』(六六八年成立)⁽¹⁸⁾など、経録が採録するよりも早い時期

に他文献が引用していることが確認できる。【房A】は貞観

五年(六三一)成立とされ、【房B】には長寿三年(六九四)

の奥書がある⁽²⁰⁾。以上のように、文献上では七世紀頃から散見

する。よつて、抄出時期は六世紀末頃か七世紀初頭ではな

らうか。

二 「出家功德尸利苾提品」と『出家功德経』の比較

(一) 『妙法蓮華経』の影響を受けた文などの付加

【房A】【房B】【敦】(以下【房A】系統)には改変や付加が

あり、「出家品」と異なる本文となっている。まず、改変された箇所を挙げる。

『出家功德経』

【房A】而相抑制。故違其心。不聽出家入於佛道。是人則斷世間佛□。其罪甚重。不可稱計。

【房B】而相抑制。故違其志。不聽出家入於佛道。是人則斷世間佛種。其罪甚重。不可稱計。

【敦】而相抑制。故為其心。不聽出家入於佛道。此人即斷世間佛種。其罪甚重。不可稱計。

【麗】令不從志。其罪甚重。如夜黑闇。無所親見。是人罪報。亦復如是。入深地獄黑闇無目。

『賢愚経』「出家品」

【敦S】【金】【麗】【磧】

令不從志。其罪甚重。如夜黑闇。無所親見。是人罪報。亦復如是。入深地獄黑闇無目。⁽²¹⁾

【七】令不從志。其罪甚重。如夜黑闇。所親見。是人罪報。亦復如是。入深地獄黑闇無目。

【興】令不從志。其罪甚重。如夜黑闇。無所親見。是人罪報。亦復如是。人深地獄黑闇無目。

「出家品」では、ある人の出家に際し、邪魔をしてその志に従わせないならば、その罪は大変重く、深い地獄に入るとするが、【房A】系統では、出家をさせないことは仏の種を

『賢愚経』「出家功德戸利苾提品」と『出家功德経』(三宅)

断つことで、その罪は大変重いとす。

【房A】系統にある「断世間佛種」という表現は、鳩摩羅什訳『妙法蓮華経』でほぼ同様の文が見られる。

若人不信 毀謗此經 則斷一切 世間佛種⁽²²⁾
次に、付加された箇所を挙げる。

『出家功德経』

【房A】是人現世得白癩病。命終當入黑闇地獄。展轉地獄。無有出期。

【房B】「」現世得白癩病。命終當入黑闇地獄。展轉地獄。無有出期。

【敦】是人現世得白癩病。命終當入黑闇地獄。展轉地獄。無有出期。

『賢愚経』「出家品」

【敦S】【七】【興】【金】【麗】【磧】(無)

先程の改変の箇所が続く部分である。【房A】系統では、ある人の出家を妨げる人は、現世で白癩病となり死後は黒闇地獄に入る、といった文を付加している。「現世得白癩病」という表現は他の經典でも散見するが、先程と同様に『妙法蓮華経』においても確認できる。

若復見受持是經者。出其過惡。若實。若不實。此人現世得白癩病。⁽²³⁾

出家を妨げることは非常に重い罪であることをより強調す

『賢愚経』「出家功德尸利苾提品」と『出家功德経』(三宅)

四〇

るために改変したのが、以上の二箇所ではないかと考えられる。

道宣撰『四分律刪繁補闕行事鈔』卷下は、以下のように『出家功德経』を引用している。

出家功德云。若為出家者。作留礙抑制此人。斷佛種。諸惡集身。猶如大海。現得癩病。死入黑闇地獄。無有出期。⁽²⁴⁾

道世集『諸経要集』卷第四でも同様の箇所を引用しており、同撰『法苑珠林』卷第二十二も同箇所を引用している。⁽²⁵⁾

これらの引用文は【房A】系統にしか見られない改変した文章を含んでいる。よって、道宣や道世は【房A】系統の『出家功德経』を見て抜粋したと考えられる。

『出家功德経』の抄出時期と考えられる七世紀初頭から間もない頃に成立した諸文献が既に改変した文を引用していることがわかった。『出家功德経』は成立時に【房A】系統のように改変されていたのではないかと推測できる。

(二) 序分の付加

「出家品」と『出家功德経』の冒頭部分を比較すると以下の通りである。

『出家功德経』

【房A】爾時世尊。佛在王舍城迦蘭陀竹林園中。天龍八

部大衆圍遶。爾時佛為説出家功德其福甚多。

【房B】□時世尊。在王舍城迦蘭陀竹園。天龍八部大衆

圍遶時佛為説出「」

【敦】 爾時世尊。在王舍城迦蘭提竹林園中。天龍八部大衆圍遶。佛説出家功德其福甚多。

【麗】 出家因縁其福甚多。

『賢愚経』「出家品」

(写本) 出家因縁其福甚多。

(刊本) 如是我聞一時佛在摩伽陀國王舍城迦蘭陀竹園中。

爾時世尊。讚歎出家功德因縁其福甚多。

「出家品」写本系統と『出家功德経』【麗】は序分を持たない。「出家品」刊本は、「如是我聞」で始まり「天龍八部」などのない序分である。『出家功德経』【房A】系統は、「爾時世尊」で始まり「天龍八部」を含む序分である。二つの序分は異なっているが、仏在処は双方とも「王舍城迦蘭陀竹林園」である。仏在処をそこに置くのは、「出家品」後半の因縁譚の冒頭で「爾時世尊。在王舍城迦蘭陀竹園。」⁽²⁷⁾とあるからである。それを元にして序分を付加したのであろう。

写本系統に序分がなく、刊本系統で序分が付く例は、『賢愚経』「沙弥守戒自殺品」にも見られる。

『賢愚経』「沙弥守戒自殺品」冒頭

【七】【興】・金剛寺本・西方寺本

持戒之人。護持禁戒。寧捨身命。終不毀犯。

【宋】【元】【明】【磧】

持戒之人。護禁戒。寧捨身命。終不毀犯。

【麗】【金】

如是我聞。一時佛在安陀國。爾時世尊。慇懃讚歎持戒之人。

護持禁戒。寧捨身命。終不毀犯。⁽²⁸⁾

この場合、刊本の宋元明版なども【七】などの写本系統とほぼ同じ文章で共に「如是我聞」などはないが、【麗】【金】の開宝藏系統では「如是我聞」などが付加されている。仏在処が「安陀國」であるのは、後にある物語の冒頭に「佛涅槃後。安陀國土。爾時有一乞食比丘樂獨靜處。威儀具足。」⁽²⁹⁾とあるからであろう。

「出家品」刊本の序分は、「如是我聞」、仏在処、「爾時世尊。讚歎」として本来の文に接続している。「沙弥守戒自殺品」の接続とほぼ同様であり、『賢愚経』の序分を改変した者の手によるものであると考えられる。

『出家功德経』序分の「天龍八部」は、付加された文などから判断して、『法華経』の影響があつたのではないかと推測できるので、本文改変者と同様の者による編集と考えられる。

よって、二つの序分は酷似しているが付加者は異なるのである。

(三) 功德の誇張

『出家功德経』には、「出家品」よりも出家の功德を誇張し

『賢愚経』「出家功德尸利苾提品」と『出家功德経』(三宅)

ている箇所が見られる。数箇所あるが、以下に一例を挙げる。

『出家功德経』

【房A】此出家果報。如千盲人。有一良醫。能治其目。

一時明見。又有千人。罪應挑眼。一人有力。能救其罪令不挑眼。

【房B】「有一良醫。能治其目。一

時明見。又有千人。罪應挑眼。一人有力。能救其罪令不挑眼。

【敦】故如千盲人。有一良醫。能治其目。一時明見。

又有千人。罪應挑眼。一人有力。能救其罪令不挑眼。

【麗】故如百盲人。有一明醫。能治其目。一時明見。

又有百人。罪應挑眼。一人有力。能救其罪令不失目。

「出家品」

【敦S】【七】【興】【金】【麗】【積】

故如百盲人。有一明醫。能治其目。一時明見。又有百人。罪應挑眼。一人有力。能救其罪令不失目。⁽³⁰⁾

一人の名医が千人の盲人の目を治す、もしくは千人が罪で目をえぐられようとするのをある人が救う、これらよりも出家の功德のほうが大きいという。「出家品」では「百人」で

『賢愚経』「出家功德尸利苾提品」と『出家功德経』(三宅)

四二

あるので、『出家功德経』では、出家の功德の比較対象をより大きくしたのである。

(四) 流通分の付加

【房A】【敦】には、経末に「一切大衆。聞佛所説。皆發道意。歡喜奉行。作禮而去。」【房B】は「一切大衆。聞佛所説。皆發道意。歡喜奉行。」の文が付加されている。経典としての体裁を整えるためであろう。

三 『出家功德経』高麗藏本の問題点

正式名称は、安世高訳『出家功德因縁経』である。

(一) 何故、安世高訳なのか

安世高訳とあるのは、酷似した経名を持つ『出家縁経』が安世高訳とされるので、それと誤解したのであろう。経録上では、『大正蔵』七九一番『出家縁経』の別名として『出家因縁経』という経名も挙がっている。⁽³¹⁾そのためか、高麗版一切経中に安世高訳『出家縁経』は存在しない。

(二) 内容

『賢愚経』「出家品」写本系統の本文、『華手経』宋元明版系統の一部、⁽³²⁾『諸徳福田経』の一部、⁽³³⁾『法句経』の偈頌を改変したもの⁽³⁴⁾を並べている。次のような特徴がある。

- ① 『賢愚経』「出家品」本文に諸本中で最も近い。
- ② 『賢愚経』「出家品」写本系統に近い。つまり序分がない。

③ 四点の経典から出家に関する文を抜き出してしている。

以上のことから、【麗】は経録などに採録される『賢愚経』抄出の『出家功德経』ではなく、出家に関する経の文句を直接抜き出し集めたものではないであろうか。

おわりに

「出家品」の序分のない形から、出家の功德を説く部分を抄出し、出家の妨げは重罪であることを強調した文を挿入し、出家の功德を「出家品」より誇張して、序分・流通分を付加して成立したのが『出家功德経』であろう。序分と改変・付加した文には、ともに『法華経』の影響があるという共通点があり、本文改変者と序分を付加した者が同じであろう点、七世紀成立の文献が既に改変した文を引用している点からそのように考えられる。

『賢愚経』「出家品」の前半では、出家の功德を端的に示しており、それをわかりやすく説いて広めるのに都合がよいため抄出されたと考えられる。目的がそうであるならば、「出家品」より功德を誇張した部分があるのも肯ける。抄出時期が七世紀初頭であるならば、六世紀後半に起こった北周武帝の廃仏とは無縁ではなからう。仏教復興の運動の中に『出家功德経』抄出があったのではなからうか。

- 1 Lionel Giles, *Descriptive Catalogue of the Chinese manuscripts from Tunhuang in the British Museum*. London: Trustees of the British Museum, 一九五七年、一二七頁。
- 2 Peking edition. [40] (1008) Hu. 176b2-3.
- 3 『大正藏』四卷三七六頁中段四〜六行目。
- 4 妻木直良「燉煌石室五種仏典の解説」『東洋学報』一、一九一一年。
- 5 例えば法経等撰『衆経目録』には「出家功德經一卷（呉世支謙譯）」（『大正藏』五五卷一一六頁下段二行目）とある。
- 6 『開元釈教録』卷二十に次のようにある（『大正藏』五五卷六九八頁下段二六行目〜六九九頁上段三行目）。
出家功德經一卷（佛在迦蘭陀竹林園者抄賢愚經出家功德品）
從虛空藏下一十五部二十四卷。既從大經流出即是別生。准衆經録別生之經不須抄寫。故人藏録除之不載。
- 7 正倉院文書中で確認できることから、奈良時代には日本に存在したことがわかる。例えば、天平九年（七三七）の「経師充経帳」に「出家功德經一卷（二枚）」とある（『大日本古文书』第七卷一一頁）。鎌倉時代に入ると、日蓮『出家功德御書』、凝然『梵網戒本疏日珠鈔』などに引用されている。
- 8 『敦煌遺書』第十五卷二二〇〜二二二頁。
- 9 『敦煌遺書』第十五卷「條記目録」十二頁。
- 10 『尾張史料』七寺一切経目録（七寺一切経保存会、一九六八年）八十頁下段。
- 11 『石山寺の研究 一切経篇』（石山寺文化財総合調査団編、一九七八年）によれば、石山寺には『出家功德經』という名の経典が二本ある。一つは久寿三年（一一五六）写、一つは室町時代写である。筆者未見であるため、どちらが『賢愚経』抄出のものかわからない。
- 12 『房山石経』第一卷二二九頁。
- 13 『房山石経』第二卷四〇八頁。
- 14 『大周刊定衆経目録』卷第一（『大正藏』五五卷三七四頁上段一〜三行目）。
- 15 法琳『破邪論』（『大正藏』五二卷四八二頁上段二九行目〜中段一行目）
捨難辯。案出家功德經云。度一人出家勝起寶塔至于梵天。
- 16 引用箇所は後述する。
- 17 引用箇所は後述する。
- 18 『法苑珠林』卷第二十二に引用されている（『大正藏』五三卷四四八頁下段二九行目〜上段四行目、同七〜十行目）。『諸経要集』卷第四と同文。
- 19 氣賀澤保規「唐代房山雲居寺の発展と石経事業」（『中国仏教石経の研究 房山雲居寺石経を中心に』京都大学学術出版会、一九九六年、二三〜一〇六頁）によれば、『冥報記』及び『涿鹿山石経堂記』（『日下舊聞考』）の記述から、七洞にあった『涅槃経』が貞観五年成立とわかる。その『涅槃経』の続きで同じ石に『出家功德経』が彫られているため同年の成立となる。
- 20 尾題下に「長壽三年四月八日」とある（『房山石経』第二卷四〇八頁）。
- 21 『大正藏』四卷三七六頁中段二九行目〜下段二行目。
- 22 『大正藏』九卷十五頁中段二二〜二三行目。
- 23 『大正藏』九卷六二頁上段十九〜二十行目。他に以下の文献にも見られる。
『天地八陽神呪経』（『大正藏』八五卷一四二五頁上段十三〜十七行目）

『賢愚経』「出家功德戸利苾提品」と『出家功德経』（三宅）

『賢愚經』「出家功德尸利苾提品」と『出家功德經』(三宅)

四四

若有衆生。不信正法。常生邪見。忽聞此經。即生誹謗言非佛說。是人現世。得白癩病。惡瘡膿血。遍體交流。腥臊臭穢。人皆憎嫉。命終之日。即墮阿鼻無間地獄。

不空訳『金剛頂瑜伽最勝秘密成仏隨求即得神變加持成就陀羅尼儀軌』(『大正藏』二十卷六四九頁中段五～六行目)

若有善男子善女人成疑惑者。世世不得真言靈驗。現世得白癩病。

法衆訳『大方等陀羅尼經』(『大正藏』二一卷六四六頁中段一～二行目)

若言見者此人現身得障道法得白癩病。

法衆訳『大方等陀羅尼經』(『大正藏』二一卷六五〇頁下段十～十二行目)

是見者慎莫語言。若言見者尚不得福。況出生死。還墮三塗。經百千萬劫苦痛難處。此人現身得白癩病。

24 『大正藏』四十卷一四八頁下段二八行目～一四九頁上段二行目。

25 『大正藏』五四卷二九頁上段十三行目～十六行目。

又出家功德經云。若為出家。苦作留礙抑制此人。即斷佛種諸惡集身。猶如大海。現得癩病。死入黑闇地獄。無有出期。

26 『大正藏』五三卷四四八頁上段七行目～十行目。

27 『大正藏』四卷三七六頁下段十三～十四行目。

28 『大正藏』四卷三八〇頁上段十九～二一行目。

29 『大正藏』四卷三八〇頁中段六～七行目。

30 『大正藏』四卷三七六頁中段十六～十九行目。

31 『歷代三寶紀』卷第四に「出家因緣經一卷(亦云佛說出家因緣經)」(『大正藏』四九卷五一頁上段八行目)とある。

32 『華手經』卷第九「阿難。菩薩有四法。終不受胎蓮華化生。」

(『大正藏』十六卷一九六頁中段五～十六行目)に相当する。

33 『諸德福田經』の「毀形守志節。割愛無所親。出家弘聖道。願度一切人。五德超世務。名曰最福田。供養獲永安。其福第一尊。」(『大正藏』十六卷七七七頁上段二七行目～中段一行目)と同文である。

34 「家人有父樂。有母斯亦樂。天下有道樂。國有沙門樂。」とある。『法句經』卷第二に酷似した偈頌がある(『大正藏』四卷五七〇頁下段五～六行目)。

人家有母樂 有父斯亦樂 世有沙門樂 天下有道樂

〈キーワード〉『賢愚經』、『出家功德經』、出家功德尸利苾提品、抄出經

(国際仏教学大学院大学附置日本古写経研究所非常勤研究員)